

2015年5月17日礼拝メッセージ

タイトル：「はい、わたしは天の御国の弟子です」

聖書箇所：マタイ13章44～52節

メッセンジャー：遠藤一則牧師

序論：

豊橋の福音喫茶で1980年代の賛美テープを見つけました。「はい、主～よ！はい、主～よ！」という何とものどかなメロディーの賛美でした。今日のテーマは「主に対して『はい。』と言うこと」です。皆さんは主イエスの問いかけに対して、すぐに「はい。」と答えることが出来るでしょうか。私がイエスさまを信じた時には、今カナダにいる石黒兄によって福音を教えてくださいました。しかし、今考えると聖書をしっかりと読んだわけでも、ものすごい覚悟があったわけでもありませんでした。でもとにかく、17歳の時、「はい。」と答えました。そして、その返事を今まで主が守り続けて下さったのです。

### I. 良い契約を見つけたら…

昨日午後、携帯の解約に行きました。他社への乗り換えの為です。いろいろと計算して、今乗り換えた方が得だ、と判断したのです。みなさんも自分の携帯だけではなく物を買ったり売ったりするときに、タイミングというものを考えるのではないのでしょうか。そして良い契約だと思ったら、今までの契約の違約金をはらってでも、そちらに移ります。私たちも今までは罪との契約に縛られ、その規約の元、生活をしていました。しかし、今や主イエスとの新しい契約の中に入る決心をした。さらに言えば導きいれられたのです。過去の契約による縛りは一切ありません。主の愛のうちに生きる特権の中にいるのです。

### II. 買う物

今日の箇所では主は天の御国を「宝だ！」と例えています。確かに福音は宝です。私たちの罪を赦し、永遠のいのちを与えてくれるからです。私たちはこの宝を見つけてしまったのです。そしてその宝のある畑をまる

ごと、買ったのです。今はすでにその畑を自分の物にしています。この畑とは聖書ではないでしょうか。毎日ゆっくり掘って行けばおそらくいろいろな地点から宝が発見できるでしょう。この宝さがしは一生使える楽しみであり、喜びです。聖書が畑です。毎日掘り返します。すると宝が出てきます。

ロシアの昔話に「この土地には宝がある」と騙されたイワンの物語があります。その場合、宝は見つかりません。でもやたらと掘り返したその畑に、種をまいたところ、何倍もの収穫があった、という話です。聖書の御言葉に宝を見つけてください。特に主の愛を見つけて下さい。そうすると当然見つかりますが、さらに副産物としての収穫も出てきます。あなたの人格や人生に成長が出てくるのです。

今私がバイブルスタディしている青年は1年前に誰かから聞いた私の携帯に「助けてくれ」とメールをしてきました。当時はパニック障害、対人困惑症を抱え、さらに家族との関係が悪く、苦い思いでいっぱいでした。問題解決のために何かをせねばとは思いましたが、あえて聖書を毎週読むことにし、問題解決のために特に動くことはしませんでした。ところが、それから1年半、苦い思いはかなり減り、少なくともパニック障害は出ていません。毎週聖書の中から宝を発見し、主の愛に触れることで、実際問題の解決にもよい影響が出てきたようです。みことばこそ、宝の眠る畑といってもいいのではないのでしょうか。

### III. 買う人

さらにここでは宝を探す人が出てきます。彼は真珠を見つけます。そして全財産を売り払い、その真珠を買いました。私たちが天国に行くためにすべきことだとは思いますが、でも私は天国という福音のためにすべてを犠牲にするようなことはしていません。すべてを犠牲にしてくださったのは主イエスのほうです。彼が私たちを探して下さった。そして私たちを真珠のように見てくださった。そして自分の命と引き換えに買取られたのです。あなたも私も主の前には勝ちある真珠だ、と主が認めておられる。そのように言いきって

しましましょう。私たちは主の目にはそれほど価値があったのです。

### III. 鑑定士

昨日、早朝ツーリングに行きました。しかし、あいにくの大雨、バイクで走るのはやめにして友人所有のトヨタ86でドライブすることにいたしました。途中、彼のお母さんが入院している病院に立ち寄り、彼女のために祈り、行き帰りの車中では彼と話をしていました。さて、途中、日本人の神観の話になり、日本人の場合、宇宙を支配し、私たちを愛する主ではなく、私たちが利用できる、有限の神もどきが神になってしまっているという話になりました。そして、その反動でむやみやたらと神を怖がる場所もあるんじゃないか、という話になりました。

本当の神、主は違います。確かに聖なる方で罪を嫌われます、しかし、人格を持ち、私たちに語りかけられます。今日の箇所でも読んだように、わたしたちに「わかりましたか。」と問い、こちらからは「はい。」と答えられるような人格的な関係、それを許容されます。これは聖書の神、主のすぐれて素晴らしいところではないのでしょうか。いつも私たちに問いかけて下さる方なのです。

### IV. 学者

天の御国は倉の中から良いものでも悪いものでも取り出す学者だ、とあります。神の前に堂々と学者だ、と言えるようなものは誰もいません。人の知識などたかが知れているのです。

でも主を信じたものは聖霊によって知恵が与えられているのです。学歴や勉強に関係なく、主からの悟りが与えられている以上、誰もが賢くなれるのです。これも感謝なことではないのでしょうか。

V. 弟子たちは「はい。」とイエスに言いました  
私がこの話の中で最も気になったのは、51節の弟子たちの返事でした。イエスが言います。「わかりましたか。」彼らは答えます。「はい。」

弟子たちは本当に分かっていたのでしょうか。わかっていなかったと思います。十字架以降ならどうでしょうか？わかりましたね。そして、人生を主にささげました。

私たちも最初はよくわからずに信じたかもしれません。でも「はい。」と言ってしまったのです。そして、自分たちはわかっていなくても主は「いや、あなたがたはわかっている。その時々私に教えよう。」と言って下さっているのではないのでしょうか。わたしたちのずいぶん心もとない、いいかげんな「はい。」という返事も主は心から真剣に受け取ってくださるのです。そして、そんなわたしたちに対してもあなたは学者に匹敵する知恵があると認め、聖霊によって日々、御言葉を教えて下さるのです。なんと感謝なことではないのでしょうか。